評 価 結 果 報 告 書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2772301467
法人名	桂商事株式会社
事業所名	グループホーム阿倍野
訪問調査日	平成　19　年　6　月　27　日
評価確定日	平成　19　年　8　月　20　日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

［取り組みの事実］

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

［取り組みを期待したい項目］

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

［取り組みを期待したい内容］

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 7月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	2772301467
法人名	桂商事株式会社
事業所名	グループホーム阿倍野
所在地	〒545－0022 大阪市阿倍野区播磨町1－20－3 （電 話）06－6622－8510

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成19年6月27日	評価確定日	平成19年8月20日

【情報提供票より】（平成19年 6月1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 18年 3 月 1 日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	17 人	常勤 15 人，非常勤 0 人，常勤換算 15 人

（2）建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	5 階建ての 3 階 ～ 4 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	90,000 円	その他の経費（月額）	30,000 円
敷 金	有（ 円）	○無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ 500,000 円） 無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食 円	昼食	円
	夕食 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円		

（4）利用者の概要（ 6 月 1 日現在）

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢 平均	83 歳	最低	73 歳	最高	92 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 錦秀会の全病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地下鉄御堂筋線西田辺駅より西へ徒歩10分の街中に、平成18年3月に当事業所は開設した。屋上庭園付きの瀟洒な5階建の3階、4階がグループホーム（2ユニット）である。各居室は車椅子対応の洗面台・トイレを備え、ゆったりした設計である。アイランドキッチンを採用した広い食堂は、食事作りを通じて入居者の自主性や生きがいを演出する場となっている。ユニット内の広々としたフロアは歩くだけでリハビリになり、随所にあるベンチは、自由に座っておしゃべりできて居心地よい。職員と入居者の会話は多く、入居者のペースに合わせた支援を行っている。理念どおり入居者がのんびりと安心して暮らせる「わが家」と感じている様子がみてとれる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

本事業所が外部評価を受けるのは、今回が初めてである。今回の自己評価では、管理者と職員は、「恰好つけずありのまま」の普段のサービスのあり方を点検するように努めた。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

6月8日に、民生委員、地域包括支援センター、家族代表の出席を得て、第1回運営推進会議を開催した。区からの出席者はなかったが、会議では、事業所のサービスの内容、行事内容などの説明を行い、参加者からは質問、意見、要望などがあり、特に地域との交流の第一歩として、近所の散歩と、ご近所マップの作成が勧められた。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

家族には月1回、会報（ひまわり新聞）と入居者個々にあわせた手紙（近況状況、金銭管理の報告）を送付している。家族会、苦情受付窓口、運営推進会議等において、家族の意見、不満、苦情を聞く機会を設けている。家族の意見等は、全体会議、フロア会議、係りの会議等で検討され運営に反映している。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

幼稚園や保育所の園児たちが来訪し、交流している。入居者にとって孫と会うような、楽しみの一つとなっている。幼稚園や保育所の園児たちとの交流を受け入れていることは、地域と繋がる良い機会であり、世代間交流という観点からもすばらしい。更に、運営推進会議の提言を取り入れ、小学校、自治会、老人会等と、地域に密着した交流を推し進めていく計画である。

2. 評価結果（詳細）

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業主体である桂商事株式会社は、長年この地域で商売をしてきた。今度はこの地域にお返しし、地域を支えていくサービスをしたい、とグループホームをたちあげた。運営の理念は、①基本的人権の尊重、②健全育成・援助の実現、③社会的自立の助長、④地域福祉への貢献、である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、運営の理念をもとに誰にも分かる理念「のんびりと気持ち安らぐあたしん家」を考案している。管理者は、職員の採用時や、その後のスタッフ会議等では必ず理念を伝え、理念の実践を確認している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	幼稚園や保育所の園児たちが来訪し、交流している。入居者にとって孫と会うような、楽しみの一つとなっている。さらに、小学校、自治会、老人会等と、地域に密着した交流を推し進めていく計画をしている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	本事業所が外部評価を受けるのは、今回が初めてである。平成18年3月に事業所の4階が開設したが、6ヵ月後の9月に3階が開設したため、外部評価を受けるタイミングが遅れたという。今回の自己評価では、管理者と職員は、「恰好つけずありのまま」の普段のサービスのあり方を点検するように努めた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6月８日に、民生委員、地域包括支援センター、家族代表の出席を得て、第1回運営推進会議を開催した。区からの出席者はなかった。会議では、地域との交流の第一歩として、近所の散歩と、ご近所マップの作成が勧められた。早速の取り組みは素晴らしい、今後継続して開催するとのことである。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	上記運営推進会議にも区からの出席者がなく、区との交流の糸口が掴めていない。	○	阿倍野区にはグループホームが3箇所しかない。そこで系列のグループホームと連携して、何らかの要望事項を持ち、区の窓口に繰り返しアプローチすることによって、区とのパイプの構築が一日も早くできることを期待したい。
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には月1回、会報（ひまわり新聞）と入居者個々にあわせた手紙（近況状況、金銭管理の報告）を送付している。事務的ではなく職員一人一人が書いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、苦情受付窓口、運営推進会議等において、家族の意見、不満、苦情を聞く機会を設けている。家族の意見等は、全体会議、フロア会議、係りの会議等で検討され運営に反映する努力がなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	設立1年余という時期だけに、入居者との馴染みを優先して、職員の異動は最小限に留める努力がなされている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回、施設内の勉強会を開催している。施設外の研修は随時受けている。区の社会福祉施設連絡会と、情報のやりとりをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同系列の同業者とは、情報交換、勉強会、相互訪問等を通じて、サービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	先ず家族に入居前の生活状況を聞き、施設の雰囲気に馴染めるよう体験入居も行っている。問題行動がきっかけで、家族も知らない古い記憶が蘇ることもあるので、家族と本人に聞きながらサービスを工夫している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は共同生活者としての意識で勤務するよう心掛けている。食事の準備、片付け、「ご馳走様」の音頭とり、洗濯等、本人の無理のないやり方で自発的に参加できる関係を築いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握は、本人との話し合いで把握している。問題行動によって、過去の状況が新たに分かることもあるので、本人の思いや意向を把握できる機会は逃さないようにしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、チームの意見やアイディアを反映させた介護計画を作成した段階で家族の同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状況の変化は、毎日、確認し記録している。急激な変化があればその都度、無いかぎり6ヵ月に1回の頻度で介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個人的な望みを叶えるために、特別な外出を支援することがある程度である。居心地が良いとみえ、外泊の希望はない。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の全員が大阪市内出身であるので、かかりつけ医をもっている。本人、家族の希望を大切に、かかりつけ医を受診できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方の話し合いを、縁起でもない、と避ける家族もいる。事業所は、重度の要介護者の受け入れを標榜しているので、終末期への考えを共有したいと考えている。現段階では、家族と事業所の信頼関係を大切に、臨機応変に取り組んでいる。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員にはプライバシー保護の重要性を認識させ、徹底を図っている。家族には、契約書を交わす段階で、個人情報の使用目的の同意書と、個人情報（氏名・写真・作品等）の新聞・会報・刊行物等への掲載の諾否書を取得し、守っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに優しく問いかけて、各自の生活習慣に従い、例えば食事、入浴、散歩など可能な限り希望にそうよう支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の間で、1週間毎のメニュー当番を決め、食材は業者に届けて貰っている。利用者と職員が一緒に食事作りや食事、片付けをしている。広々とした食堂なので、これらの作業が混乱なく出来ることはメリットである。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	各階に風呂があり、3階は月曜、水曜、金曜が入浴日、4階は火曜、木曜、土曜が入浴日となっている。一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、4階の入居者が3階の風呂に入ったり、その逆のこともある。機械浴の装置も備えている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事が得意な人、散歩が好きな人、外出はしたくないが、屋上庭園を歩くのは好きな人、それぞれの好みに合わせて、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の建物が車道に面しているので、交通事故の懸念がある。頻繁にとは言えないが、天気や気候に合わせて、散歩や買い物の機会をもち、付き添っている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所の建物が車道に面しているので、玄関の鍵はかけないものの、それに続くエレベーターはロックしている。ロックを解除したいが、もしもの場合、命にかかわるので、解除できずにいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域住民との避難訓練を希望しているが、まだ実施していない。	○	消防署に依頼し、地域の防災訓練と合同で避難訓練を実施できるよう早急に努力してほしい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂食量は毎回記録している。カロリー計算は年に1回、保健所に依頼している。料理に使用する材料の量などから摂取カロリーの大凡の目安をつけ、メニューを作成している。摂水量は特に記録していないが、湯のみの飲み干し状況には留意している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビは音量調節し、光の調節はカーテンで行っている。広々としたフロアは歩くだけでリハビリになり、随所にあるベンチは、自由に座っておしゃべり出来る、居心地のよい場となっている。季節感は、屋上庭園の花や緑で感じ、旬の食材で味わっている。特に屋上庭園の有効利用はすばらしい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、大はタンス、ベッド、小は茶碗など、使い慣れた物を居室へ持ち込むことを推奨している。一般に入居者はこの施設を気に入っているようで、自宅で妻が待っているケース以外は、自宅へ帰りたいという人はいないとの事である。		